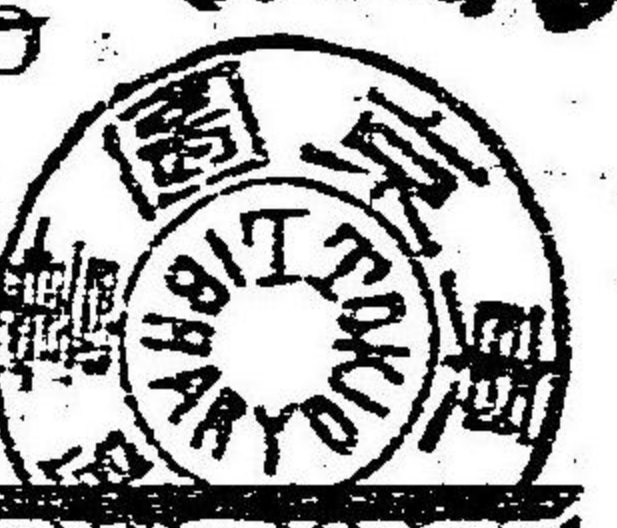


弘道新說

43

659

特44
226
特43
659
N24624



緒言

此册子錄修身要語以頌大成會員者也分爲三項
第一項論教育之主旨品行之方法德義之妙用而每
册揭其目以明要旨
第二項爲言行襍錄大凡古今人士嘉言善行可以爲
範則錄之會員所寄論說亦載于此而其言之過簡過
激或未完全則編者不能任其責也
第三項爲詩文襍評錄詩文關於風教者也而文雅之
可愛者亦間取之蓋文章之道固主立教傳道雖然非
妙于辭敏于筆者不能感人心動人意故有取于詞也



以爲學文章之方而已、

明治二十二年二月

南岳藤澤恒識

弘道新説

祭祀ノ大概

藤澤南岳述

去月三十一日ハ、立春ノ節ヲ去ル二百十日ナリ、世俗ニ稱
シテ厄日トシ、此日ノ前後ニハ大風ノ恐レアリト云ヘリ、
然ル處、二十九日ヨリ果シテ風勢大ニツノリ、加フルニ雨
ヲ以テシテ、一夕ノ安眠ヲ得ズ、曉天ニ至リ、屋上ニ登リ四
方ヲ望ムニ、近隣ノ物見臺ハ過半損壞シテ、大小ハ折レ、高
牆ハ仆レタリ、追々聞ク所ニ據レハ、西北區ハ最甚シク、郡
村ハ區内ヨリ甚シ、遠ク京師東京ノ状態モ、亦頗ル烈風タ

リ、嗚呼、風雨ノ時ヲ失ナハサル此ノ如キカ、然ルトキハ氣
節ト定メタルハ、決テ違ハズ、九月ノ衣ヲ授クル時去レハ、
忽ニ風氣栗烈トシテ、寒氷水面ヲ鎖ザス、漸クニシテ陽氣
ノ回リ加ルニ從テ、暖和身ニ適シ、又一轉スレハ、炎暑ノ候
トナル、四時ノ昭々タル、千古カハルコトナシ、春夏秋冬ノ各
誠ニ廢スベカラズ、眼ヲ轉シテ全世界ヲ見レハ、一年中寒
氣甚シク、氷ノ解ケザル海モアリ、熱度ノ過分ニシテ、終ニ
涼冷ノ氣ヲ覺ヘザルアリ、又年中春ノ如キ氣候ニテ、花ハ
開キツメ、木ハ常ニ榮ヘ霜雪ナドノ草木ヲ枯ラスナドハ
絶テ之ナキアリ、然ル地方ニハ、何ソ四時ト云フテ用ヒン

ヤ、此ニヨツテ考フレハ、四時ハ獨リ暖帶ノ諸邦ノ私有ス
ル所ニシテ、不通ノ者ト云フベキニ似タリ、然レモ我邦ナ
トニハ、此天時ヲ具ヘタレハ、四時ニ氣節ヲ加ヘ、又七十二
候ヲ定メ、草ヤ花ヤ鳥ヤ虫ヤ、皆時候ヲ失ハズシテ、之ニ應
ジ、鶯ヲ聞テ春ヲ知り、蟋蟀セキキヲ聞テ秋ヲ知ル、身ニ慣レタル
時候ノ、人心ヲ調和スルハ、樂ム可キノ至リナリ、隨テ此制
ヲ定メタル、制作ノ妙ヲ覺ルナリ、他邦ニ四時ヲキ處アリ
ト云テ、春夏秋冬ノ名モ廢セント云ハゞ、天下ノ咲ヲ招ク
ノミ、時節ニ長短ノ差アルヲ見、物ニ大小ノ別アルヲ見、事
ニ緩急ノ分アルヲ見テ、節度ノ天下ノ大制タルヲ知ル有

ルナリ、

前冊ニ耻ナル者ノ重ク且ツ大ナルヲ説ケリ、其耻ヲ耻ト
シ、分ヲ知ルハ、何ニ因テ其地位ニ進マシヤ、此聖人ノ禮ヲ
制セル所以ナリ、夫禮ハ親疏ヲ定メ、疑ハシク似ヨリタル
ヲ決シ、同異ノ分ヲ難キヲ別テ、是ト非トヲ明カニスル所
以ナリ、又上下ヲ分テ、貴賤ヲ辨スル所以ナリ、其制作ノ妙
用ニ就テ、祭祀ノ一端ヲ説カシ、祀ハ、洪範ノ八政ニ食、貨、祀、
司空、司徒、司寇、賓、師、トアル其一ニシテ、上帝ナリ、日月星辰
ナリ、土地ノ神ナリ、五穀ノ神ナリ、山川ナリ、門戸道竈ナリ、
又人ノ德アリ功アリタルモ祭ル、其祀典ニ在ルハ、法ヲ制

シテ民ニ施セルハ之ヲ祭り、死ヲ以テ事ヲ勤ムルハ之ヲ
祭リ、身力ヲ勞シテ國ヲ定ムルハ之ヲ祭り、能大蓄ヲ禦ク
ハ之ヲ祭り、大患ヲ捍クハ之ヲ祭ルト、其祭祀ノ主旨ヲ釋
シテ、天地ヲ祭ルハ本ニ報スルヲ示ナリ、聖賢ヲ祭ルハ德
ヲ崇^{ホウ}ブテ教ユルナリ、祖考ヲ祭ルハ追孝ヲ教ルナリト云、
其禮タル位ノ尊キト卑キニ從テ同異アルヲ、禮經中ニ詳
ナリ、故ニ天子ニ非レハ、天地日月ヲ祀ルヲ得ス、諸侯ニ非
レハ、山川社稷ヲ祀ルヲ許サズ、其祖考ヲ祭ルニモ、天子ハ
七廟、諸侯ハ五廟、大夫ハ三、士ハ二ト、等ニ從テ制アリ、祭り
ノ器具モ、位ノ高下ニ從テ其多少ヲ定メタリ、若シ不學ノ

人精理ニ疏キ者ヲシテ判セシメハ、位ノ高下ヌヲ無法ナリ、況ンヤ祭ルニ多少ヲ定メント云ハシカ、吾道ノ鬼神ヲ敬シ祭祀ヲ慎ム、此ノ如シ、猥ニ無鬼論ヲ唱フルハ、聖人ノ意ニ非ス、試ニ世界ノ宗教ナル者ヲ見ルニ、波斯教ノ日ヲ拜シ、回々教ノ天神ヲ奉シ、婆羅門教羅馬教モ天ヲ拜シ、基督教ノ天主ヲ祭リタルト、佛教ハ其主唱ノ人釋迦ヲ佛トシテ之ヲ奉祀スルノ類、十誡又ハ十善ノ名目ヲ設テ人心ヲ導ケル、大抵朝夕神明ニ事ヘ、一事一事神明ニ依頼スルノ方法ナリ、吾聖人ハ徳ヲ修メ倫ヲ明ニシ人事ヲ主トシテ以テ神明ノ保護ヲ待ノミ、此ノ宗教ニ

異ナル所以ナリ、或曰ク、嘗テ耶蘇ノ理證ナル書ヲ讀ムニ、天主ハ則四書五經ニ稱スル所ノ上帝ナリト云ヘリ、是吾聖道ト符合セリ、然ルニ之ヲ非トスルハ何ソヤ、答曰、天主敬シ、上帝ヲ祀ル、實ニ吾道ノ大典ナリ、耶蘇ヲ講スル者、此一事ノ是ヲ主張シテ、人心ニ媚ブルノミ、其方法ノ組織ヲ察スルニ、皆人道ノ正ヲ得ズ、新舊約書ヲ讀ニ、妄誣ノ言、半ニ過ク、大凡婆羅門ハ、天神ノ口ヨリ生レタル種族ト云ヒ、馬哈默カ洞中ニ於テ天神ヨリ授カル所ノ聖書ト云テ、可蘭ナル書ヲ經典トシ、摩西ガ十誡ヲ神ヨリ口授セリト云ヒ、基督ガ磔死ノ後三日ニ蘇生シテ四十日ヲ經テ天ニ升

レリト云ヒ、天帝カ耶蘇トナリテ人間ニ出ルナリナド云
フ如キ、宗敎家ノ言ハ一切人ヲ愚弄スルト云者ニシテ、今
日文明世界ノ人物ノ信ズ可キ事ニ非ズ、且天ニ褻神ヲ瀆
スハ無禮ナリ、又幽冥ノ事ノ、推スベクシテ、目ニ見手ニ取
ルヲ得ザルコトハ、聖人強テ敎トセズ、唯其制ヲ立テ、上帝ヲ
祭ルベキハ天子ノミ、山川ノ神ニ事ルハ唯諸侯ノミ、平民
ハ其祖先ヲ祭リ、祖先ノ靈之カ善惡ヲ見テ禍福ヲ降ス、其
降ス所、則上帝ノ命ナリ、祖先カ上帝ノ命ヲ傳ルナリト云
意ナリ、猶一々ニ之ヲ人民ニ明諭セズ、唯人事ヲ盡スガ天
ヲ敬スルナリト敎タルハ、制作ノ主腦ニシテ、天下ノ妙用

ト云フ可シ、況吾邦ニ在テハ、

天皇ノ命ニ從フ、即チ上帝ノ命ニ從ナリ、

神祖天照太神及ヒ

天孫ヲ敬スル、即チ上帝ヲ敬スルナリ、天下豈ニ此ノ如キ
簡易ナル敎制アラシヤ、

吾邦幸ニ暖帶ノ域ニ在テ、四時誠ニ調和セリ、人質温良ニ
シテ倫常ノ分モ自ラ明カナリ、習俗ノ美ナル、才智ノ俊ニ
ノ敏ナル、皆宇内ニ誇ルベク、外邦人ノ賛獎欽羨スル所タ
リ、此レ上下ノ分ヲ守リ、大小ノ別ヲ明ニスルニヨル、何ゾ
此美俗ヲ棄テ、天道ニ背キ、四時ヲ廢スルノ説ト同シク、咲

ヲ取ル可ケシ、長ヲ外邦ニ取テ、我短ヲ補フノ説、變シテ我
長ヲ棄テ他ノ短ニ倣ハントス、此識者ノ心ヲ傷マシムル
所ナリ、其因テ然ルノ原ヲ尋ルニ、精神ノタシカナラズ、禍
福ヲ恐ル、ノ念多キニ在リ、此邦俗ノ一大患ナリ、上古以
來、義勇ヲ以テ俗ヲ成セドモ、真ニ心ヲ禍福利害ノ外ニ置
テ、確乎トシテ動カザル人ハ、十ヲ以テ數フルニ至ラズ、故
ニ貴顯ニ媚ルハ、人禍ヲ恐ル、ナリ、巫カンナギヲ信シ、淫
祠ノ多キハ、神罰冥譴ヲ恐ル、ナリ、遂ニ狐狸ノ類マテモ
敬シ畏ル、ニ至ル、豈大丈夫ト云フベケンヤ、北宮黝ハ一
匹夫ナリ、然レドモ自ラ顧テ直ケレハ、千萬人ト雖モ、吾往

ント、蓋シ守ル所アレハナリ、今ノ人一身ノ保護ヲ狐狸ニ
依頼シ、病アレハ之ニ祈リ、損害アレハ之ニ祈ル、滔々皆シ
カリ、况ヤ山川ノ神ヲ信シ、菩薩明王ヲ信スルヲヤ、祭祀ノ
法ヤブレ、家々ニ巫祝ヲ招キ、上帝ヲ祭り、其不敬ヲ忘レテ
ナレケガル、ニ至ラシ、嘆ズ可キナリ、此ヲ救フ豈他アラ、
シヤ、心ヲシテ守ル所アラシムルノミ、祈ラズシテ神ノ保
護ヲ得ルノ道ヲ喻シ、誠意正心ノ四字ヲ熟知シテ、胸中ニ
保存セシメバ、是弊自ラ滅セシ、
邦域ノ中ニ淫祠多キハ、公卿ノ耻ナリ、水府烈公ノ如キ賢
明ノ人ニ非レハ、此ヲ毀ツ能ハズ、且此ハ吾曹ノ與ル可キ

ニ非ス、唯其制ヲ定メ妄ニ祭祀スルヲ禁セラレシトテ願
フノミ、宗教ノ制ニ至テハ、尤吾曹ノ與ル所ニ非サレモ、米
人アーサー・メイナツアナル人ノ論ヲ見ルニ、米國大學ノ
思想ニハ、學理上ヨリ世界ノアラユル宗教ヲ研究シ、其中
ノ眞理ヲ見出シテ、別ニ一家ノ說ヲ立ルモ、其自由ニアリ
ト、又云、各種ノ宗教ガ、國人ノ互ニ相會スルガ如ク互ニ其
猜忌ノ念ヲ排シ、相尊ヒ相助クルノ精神ヲ以テ相會セハ、
眞實ノ宗教トナラント、余思フニ、此ノ勢ノ至ル所必スシ
カレベシ、目今吾邦内ニモ、神佛ヲ一并セシト云フ說アリ、
此ハ天然ノ勢ニテ、全世界ノ宗教モ、必相軋ルノ弊ヤムベ

キナリ、然レトモ相軋ラズ排セザルニ至ルハ、ツマヨリ其宗
門ノ力衰ヘタルナリ、其衰ルト云ハ、上文ニ述ル如ク、文明
世界ト唱ヘタル人ノ、妄誕無驗ノ說ヲ信スルアラシヤ、且
ソレ歐洲ノ宗教ハ、勢力強ニ過ク、夫レ國家人民ノ綱紀ハ、
政事家ノ主掌スル所ナルニ、其政令ニ從ハザル教徒アル
ハ、自然ノ理ニ背クノ甚キナリ、又其宗門ノ爲ニ千百萬ノ
人命ヲ害ニ至リ、其教法ノ外ノ書ハ焚テ之ヲ棄ルニ至ル
ヲヤ、此學士ニ輕蔑セラレ、所以ナリ、故ニ宗教ノ各ヲ廢
シ、別ニ一種ノ天ト神ニ事ヘ、ナレバナラサル方ヲ設ク
ルニ如カズ、然スレハ、政事ハ儀式理財法律ノ門ヲ明ニシ

ヲ、以テ國家ノ紐律トナリ、教ハ德育智育材藝ノ門ヲ明ニ
シテ、以テ人倫ノ典則トナリ、天子祀リ鬼神ニ事フル禮ヲ
其間ニ存セバ、何ソ擾々ノ宗教ヲ假ラシヤ、宇内ニ若大豪
傑ノ出ルアラバ、必ス事ニ此ニ從ハシ、

言行雜錄

鬼神ヲ敬シテ之ニ遠ザカル

大阪

生駒膽山

名章
會員

凡ソ勸懲ノ道、導クニ禍福ヲ以テスルハ易ク、諭スニ理義
ヲ以テスルハ難シ、余謂フニ神佛耶蘇等ノ教ハ、其蓋奥ノ
真理ハ姑ク置キ、其表面ハ皆禍福ヲ以テ導クモノナリ、故
ニ其行ハル、ヤ速ニシテ且廣シ、儒教ハ然ラズ、天地ノ性

ニ本キ、萬物ノ情ヲ明カニシ、己レノ心身ヨリ家國天下ヲ
正クスルニ至ルマテ、皆事理ノ當然ニシテ、人間ノ實用ニ
アラザルモノナシ、毫モ虛妄怪誕ノ說ヲ雜ヘズ、故ニ其學
フヤ、中人以上ニ止リ、普ク匹夫匹婦ニ及ハズ、所謂大聲ハ
里耳ニ入ラザルモノ乎、然レモ之ニ說クニ俗語ヲ以テシ、
之ヲ曉スニ譬喩ヲ以テスレバ、下愚者ニ非ルヨリハ、凡ソ
人心ノ靈ナル、豈ニ終ニ感悟シ難キノ理アラシヤ、是レ吾
輩カ本會ヲ設ル所以ナリ、茲ニ鬼神ノ理ヲ說キ、以テ儒教
ノ大体ヲ示サシ、孔子曰ク、民ノ義ヲ務メ、鬼神ヲ敬
シテ之ニ遠カル、知ト謂フベシト言フハ、凡ソ子ト爲テハ、

孝ヲ盡サヅル可ラズ、臣ト爲テハ忠ヲ盡サヅル可ラザル
如ク、各其身ノ當サニ爲スベキ人ノ道ヲ務メ行ヒ、鬼神ノ
徳ヲ敬シテ、其禍福ニ惑ハズ、之ニ遠ザカルヲ道理ヲ知ル
ト謂フベシト、今世俗ノ鬼神ニ於ルヤ、之ヲ敬スルモノハ
謂フ所ノ敬ニアラズ、己ノ私ヲ以テ妄ニ福ヲ祈リ、禍ヲ
攘フ、是レ之ニ褻近スルナリ、又之ニ遠カルモノモ、謂フ所
ノ遠カルニアラズ、己ノ威ヲ以テ恣ニ廟ヲ毀テ主ヲ踏
ス、是レ之ヲ侮慢スルナリ、而シテ其平生爲ス所、多クハ人
欲ノ私ニ出テ、天理ノ何物タルヲ解セズ、豈惑ヘルノ甚キ
ナラズヤ、故ニ之ヲ敬シ之ニ遠カルハ、理ヲ見ルニ明カナ

ルモノニアラザレバ能ハズ、聖人ノ言旨アル哉、
抑モ鬼神ノ二字ハ、爾雅ニ曰、鬼ノ言タル、歸也ト、易ニ曰、陰
陽測ラレザルヲ之レ神ト謂フト、夫レ天地ハ至誠無偽ノ
一元氣ナリ、人ノ生ル、ヤ、是ノ氣ニ資ル、其死スルヤ、是ノ
氣ニ復ス、即チ鬼ナリ、陰陽和シ、四時成リ、日月山川風雨霜
露禽獸草木虫魚等、各其所ヲ得、萬古ニ互テ變セズ、一瞬ト
雖モ止ラズ、妙機自然ニシテ、人智ノ推測スル能ハサルモ
ソ皆是ノ氣ノ作用ニシテ、即チ神ナリ、然ラハ則チ天地至
誠ノ氣ヲ名ケテ鬼神ト曰フモ不可ナル無ラシ、是故ニ我
邦歷代ノ 帝王ハ勿論、管公楠公ノ如キ、其忠誠無私ノ

氣千歳ヲ經ルト雖也、凜然生ルガ如シ、豈ニ崇敬セザル可
ンヤ、
傳ニ曰ク、神ハ非禮ノ祭ヲ饗ケズト、又俚諺ニ正直ノ頭ヘ
ニ神宿ルト云、故ニ人事ヲ敬慎シ、其心ヲ誠ニスレバ、鬼神
ト其徳ヲ同クスルモノニテ、孔子ノ未ダ人ニ事フル能ハ
ズ、焉ソ能ク鬼ニ事ヘント云ヒ、又丘ノ禱ル久シト云ハレ
シモ、孟子ノ知言養氣モ、皆是ノ理ニ外ナラズ、或ヒト司馬
温公ニ問フ、子ハ神ニ事フルカ、曰ク、神ニ事フ、或ヒト曰ク
何ノ神ニ之レ事ル、曰ク、其心神ニ事ル、或ヒト曰ク、其之ニ
事ル何如、曰ク、至簡ナリ、黍稷セズ、犧牲セズ、惟欺カザルヲ

之レ用ト爲ス、君子ハ上ミ天ヲ戴キ、下ハ地ヲ履ミ、中ハ心
ヲ函ル、之ヲ欺カント欲スト雖モ得ンヤト、眞ニ確言ト謂
フベシ、然レモ、余ハ世ニ禍福ナシト斷言スルニアラズ、凡
ソ事天理ニ順ヘバ自ラ吉、天理ニ逆ヘバ自ラ凶ニシテ、易
ニ吉凶ヲ説クモ、即チ是レナリ、豈天地ノ外、別ニ鬼神ナル
モノアリテ、人ノ祈ルト祈ラザルニ因テ肆マ、ニ禍福ヲ
與フルモノアラシヤ、
今又一步ヲ進メテ之ヲ論セシ、近頃世人口ヲ開ケハ、自主
ヲ唱ヘ自由ヲ説ク、自主トハ己レノ心ヲ主トシ、他ニ依頼
セザルヲ云ナラシ、又自由トハ、他人ノ妨害ヲ爲サズシテ

己レノ權利ヲ主キフルナラン、然ルニ妄ニ鬼神ニ依頼シ
己レノ權利ヲ殺クカ如キハ、自家撞着ト謂フベシ、
説テ此ニ至ル、人アリ曰ン、諭シ難キノ實理ヲ説キテ功ナ
キヨリハ、寧ロ導キ易キノ方術ヲ以テ實功ヲ奏スルニ如
カズト、噫、是レ何ノ言ゾヤ、譬ヘハ父母ノ其子ヲ教育スル
ニ、一時ノ虚言ヲ以テシ、或ハ菓餅ヲ與ヘント云、或ハ妖物
來ルト云ハズ、其功アルニ似タリト雖モ、其子ノ善良ナラ
ンヲ欲シ、而シテ父母ヨリ之ヲ欺クハ、謂ハユル醉ヲ惡ム
テ酒ヲ強ルモノナリ、若カズ廿四孝等ノ倫理ヲ話シ、漸ク
其腦裡ニ浸染セシムルニハ、是レ嬰兒ト雖モ、天賦ノ良心

アルヲ以テ、其功ナシト爲サズ、況ンヤ世事人情ヲ知ルモ
ノニ於テチヤ、孔子ハ文行忠信ヲ以テ教ヘ、怪神ヲ語ラズ、
之ヲ要スルニ禍福ヲ以テ導クハ、人ヲシテ愚ナラシメ、理
義ヲ以テ諭スハ、人ヲシテ智ナラシム、方今人智ノ増進ヲ
圖ル、惟レ日モ足ラザル如シ、而シテ其教ニ至テハ、智ナラ
シムルモノヲ取ラズシテ、愚ナラシムルモノヲ取ラント
スルハ、豈ニ謬ナラズヤ、

前日來、振鐸會ヲ創メ、道德ヲ講談ス此篇ハ去月ノ講談
ニ係ル

振鐸會毎月一日十五日ヲ期シ吾道ヲ講談ス近ニ在ル

者ハ席ニ列ルヲ得遠ニ在者ハ此編ヲ讀テ其講ノ大旨
趣ヲ得ルヲ欲ス故ニ次號モ次ヲ逐テ其講ノ一二ヲ錄
報セシ

詩文雜評

禍福論

貝原益軒

古語曰、天道好還、蓋善惡必有禍福之應、是天道自然
之理、古今華夷、吉凶不僭、但有遲速之異耳、是必然之
驗、甚昭晰可信焉、且可畏也、首段揭天道之常以
立案、焉字也、字、字法、夫君
子之作善也、爲道非有意微福、微、求也、行法以俟命而已
矣、若夫衆人作善爲求多福亦可也、然而衆人昏迷蔽

塞、不能辨是非也、不知天道福善禍淫之理、不能曉於作善弭

不善、愛衆施濟之爲求福之道、妄媚于淫祠、謠于鬼神、

雖祈禳禳災禱請百計、然非禮而褻瀆、則無得其應驗、

者、古今之迹、昭昭可見矣、分君子與凡庸人、嗚呼、鬼神

聰明正直、故雖非禮、詭禱不枉理而福人、唯能爲善者、

有神明祐助之益、勝于非禮而禱請、詭求者百倍、斯理

亦甚昭昭矣、然衆人常爲無益、而不能爲有益、愚昧之

甚矣、雖庸人亦當知其詭求之無益、而爲善之有益也、

孰若行陰德而自然有陽報乎、疊用有益無益之字以
畢主旨、其論人懇到

凡善惡ノ應報ハ實ニ昭々ナリ、祈禱ノ得ハキ所ニ非テ

ルナリ、此篇ハ反覆丁寧ニ、ナレケガスノ弊ト、凡庸ナル、
人ト雖ニ語ヒ求ルノ失アルベカラザルヲ論シ、盡セリ
宜シク人事ヲ盡シテ天命ヲ俟ツ可ノ意、一篇ノ主腦、

與友人某書

河内 岡田梅窓 名英 會員

某啓、別來殆將周歲、僕性疎懶、不能時修尺素、以候起
居、然未嘗不思足下也、忽接郵筒、辱問僕近况、感謝感
謝、僕與足下、生隔千里、非有葭葦之親、竹馬之交、而意
氣相投、思而不忘者、是豈偶然哉、僕近日專讀漢籍、大
有所感悟、土屋鳳洲曰、先提其要、請試陳之、夫治國平天下之基、
在修身齊家、修身齊家之要在正心誠意、余幼時聞此

言、以爲是昔儒之說、不適今日、今則恍然有悟也、凡物
積小成大、自近及遠、自然之理也、又曰、不窮之於小、
不可知之於大、不修之於近、不可治之於遠、是故泰山
之高、土壤所積、江海之深、涓滴所聚、而千步之程、始自
一步也、句法 可玩、且夫天下之物、尤近者無如我身、我身之
尤近者、無如我心、我心者、事物之本、而是非由判、善惡
由別、苟非正之誠之、則其所判別、皆不得其中正、而欲
修身齊家、決不可得、况於治國平天下之大業乎、韓愈
曰、古之所謂正心誠意者、將以有爲也、要旨蓋在此矣、
嗚呼、是可以見聖賢立言之至深至嚴、不可易也、取微 于古

人_レ得_レ僕嘗閱_二譯書_一泰西亦有_二積_レ小成_一大自_レ近及_レ遠之說_一
且其所謂金言玉章者漢儒千歲之前已言之者往往
有焉是又可以見天地自然之理無古今東西之別也
然方今我邦人士專用力于洋書至漢籍則棄_レ土視之
有_レ爲_レ之說者目爲迂儒群聚笑_レ之殊不知漢土聖賢之
言有勝泰西前哲之說者且邦人讀_二漢籍_一與_二學_レ洋書_一其
便否固有_レ不待_レ言者不啻文字器用之習慣殊_レ其宜也
鳳洲曰此言實然沈_二醉洋書_一者蓋不_レ察耳是之不思徒雷同附和以糞_レ土視
之_レ不亦甚謬哉故學者先得_レ力于此後以學_レ洋書則必
有_レ思過半者矣是亦自_レ近及_レ遠之一端也_一
顧應_レ有_レ法足下謹

敏着實其識見非余輩之所企及聊述_二鄙說_一乞_二教_レ左右
兼謝_二契濶之罪_一足下幸莫_レ爲_レ迂儒之言而糞_レ土視之_一不
宣

鳳洲評論旨平實筆不濡滯故佳

謹敏着實ノ四字蓋_レ自道_レヲナリ余既_二其行_レヲ信ス_一今
其言_レヲ聞_レテ益其敏捷卓識ニ感ス世ノ此言ニ耻_レヲザル
人ホト_レノ_レア_レス_レク_レナ_レシ_レ嘆ス可キ_レノ至_レナリ

詠史二首 作州山田俊平會員

詠_レ花_レ吟_レ月_レ托_レ高情_レ倥_レ僂_レ鏡衣_レ辭_レ帝京_レ假_レ使_レ沙場_レ埋_レ戰骨_レ
不_レ埋_レ千載_レ集中_レ名

英傑吾推不識菴、爲爺報仇義無慚、穢山真是敦倫者、
彼此竟非同日談、

平薩州ハ韵ヲ以テ評シ甲越二侯ハ倫理ヲ以テ判ス各
妙

明治二十一年九月五日 印刷
同 年九月二十日 出版

東區淡路町一丁目十六番地

愛媛縣士族

著述兼發行者 藤 澤 南 岳

東區南久寶寺町四丁目九番地

大阪府平民

印刷者 岡 島 幸 次 郎

